

# 原発 ゼロ にむかって

2012年5月23日 No.20

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel: 03-5978-2741 fax: 03-5978-2865 mail: sien@tokyominiren.gr.jp

代々木健康友の会 <福島応援の旅>

## 「忘れないでいてくれることが一番励みになる」

代々木健康友の会では5月13日～14日に「福島応援の旅」を企画、36人が参加しました。大震災と原発事故から1年2か月、復興がほとんど進まず苦難を強いられている福島の現実を目の当たりにしました。

◇参加者の声◇ 福島は震災の被害よりも原発事故による放射能被害が深刻でした。農民連・根本敬さんは、「原発の賛否や保障区域の線引きで住民が分断されている」「放射能の恐怖でバラバラに避難した家族」など、福島が抱える重い現実と、福島再生への決意が語られました。『産直カフェ』店長・赤間初江さんは、「涙することもあるが、こうして皆さんが福島のことを忘れないでいてくれることが一番励みになる」と話されました。また、小名浜から塩谷崎に向かう途中では、津波で土台しか残っていない町並みや瓦礫の山を目の前にして、津波の怖さを実感しました。

福島の皆さんは本当に頑張っていると思いました。お話を聞けば聞くほど、原発は「百害あって一利なし」、原発を無くすことは人類を救うことだと強く思い、「私もやらなければ」と福島からエネルギーをもらって帰ってきました。皆さんも一度は自分の目で見てきてください。



『産直カフェ』店長・赤間さん

福島県農民連・根本さん

参加者は土産をどっさり買い込み、帰りのバスでは「テレビで見るだけだった被災地に来て良かった」「原発を無くすまで闘う」と誓いました。

## 東京西部保健生協 5・6原発ゼロ祝賀パレード

5月5日深夜、泊原発を最後に「原発（稼働）ゼロ」が実現しました。この歴史的な瞬間を喜びつつ、これから再稼働をさせないために闘い続ける決意表明の意味も含めて、5月6日（日）に脱原発杉並・原発やめろデモ共同で“祝賀パレード”と題したデモ集会が行われました。豪雨と雹（ひょう）にも負けず、4000人近くの方が参加し、当生協からも25人が参加しました。



参加者は「脱原発ただ一点」「誰でも参加できる」にこだわって集まりました。また、デモコース周辺の住民やバス会社にお知らせとお詫びのチラシをつくって事前に配布したり、沿道の飲食店や商店にデモ参加者へトイレの貸出をお願いしたりと、細かいところまで手を尽くしました。

いろんな人たちの溢れるアイデアで実現した「脱原発杉並」。わたしたちは、原発のない社会をめざし訴えつづけます。この杉並発の運動をきっかけに東京中に、日本全国に、さらには世界中に広がっていくことを願ってやみません。

(東京西部保健生協「きずな通信」より)